

BUDŌ NEWS

今月のニュース



日・ASEAN 友好協力 40 周年記念
タイ王国派遣日本武道代表团 (2 ページ)

武道演武会開会式

全日本選手権大会



優勝＝安喰愛選手 (島根県)

なぎなた (28 ページ)



優勝＝香川幸允選手 (東京都)

空手道 (20 ページ)



優勝＝川端翔伍選手 (日本夫)

相撲 (12 ページ)



日・ASEAN 友好協力 40 周年記念タイ王国派遣日本武道代表団

泰国で武道交流を図る

11 月 13 ～ 20 日 タイ王国・バンコク都



武道演武会

(11月17日・バンコクユースセンタースタジアム2)



弓道



柔道



剣道

日・ASEAN友好協力40周年記念タイ王国派遣日本武道代表团（主催II日本武道館、日本武道協議会）は、11月13～20日の8日間（日程表別掲）、タイ王国バンコク都に派遣され、現地で武道演武会、武道セミナー、交流稽古会、ワークショップなどを行った。

代表团は団長の松永光日本武道館会長以下、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、など、また、銃剣道の現代武道9道と、天真正伝香取神道流剣術、無比無敵流杖術、沖繩剛柔流武術の古武道3流派の計12団体の代表者66名に事務局、記録を加えた計72名で編成された（団員名簿別掲）。

17日に行われた同代表団の主事業であるバンコクユースセンタースタジアム2での武道演武会では、団員が武道、古武道の真髄を披露。集まった満員の観客2千名を魅了した。その後行われたワークショップでは会場のあちこちで観客が武道、古武道を体験し、日本文化の一端に触れた。

（記事中の時刻は、現地時刻を用いた）

満員の観客に日本武道の真髄を披露



天真正伝香取神道流剣術



なぎなた



銃剣道



合気道

今回の派遣事業におけるメインイベントとなる日本武道代表団武道演武会は11月17日、バンコクユースセンタースタジアム2で行われ、9つの現代武道と古武道3流派が演武を披露。満員の観客2千名が武道の真髄を堪能した。

演武会は定刻通り、14時に開会が宣言され、両国歌斉唱の後、松永光団長が挨拶に立った。

「武道は日本の代表的な伝統文化であり、我々はこの文化を大事にしながら、これからも発展させていきたいと思っています。本日は現代武道9道と武道の源流となった古武道3流派が演武を披露いたします。観客の皆様には日本武道の真髄をご覧いただければと思います」

続いて、佐藤重和在タイ日本国大使館特命全権大使が挨拶を述べた。

「日本とASEAN友好協力40周年を記念して、日本武道代表団の演武



モントリー・チャイヤバン
タイ体育局副局長



佐藤重和
在タイ日本国大使館特命全権大使



松永光
日本武道代表団団長



開会式

武道演武会

(11月17日・バンコクユースセンタースタジアム2)



沖縄剛柔流武術



相撲

観客を魅了



少林寺拳法

会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。日本とタイの両国は600年以上の友好関係があり、とりわけ、日本の皇室とタイの王室は、伝統的に友好関係を築かれております。また、タイでは武道への関心が高く、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道のクラブが数多く、武道分野の交流が大変盛んなお国柄です。今回の演武会によって、タイにおける日本武道の普及が大いに進展することを期待しております」

次にタイ王国体育局のモントリー・チャイヤバン副局長から歓迎のことばが述べられた。

「ASEANと日本の協力・友好関係が続いて40周年というこの節目の機会に、様々な武道の演武を拝見することが叶い、非常に光栄に思います。柔道のようなオリンピック競技やその他の武道種目、古武道流派といった武道芸術が我が国で普及されることはタイ王国のスポーツ界としても大歓迎しております」

演武種目の紹介に続いて、一種目8分の持ち時間の中で、前半は弓道、無比無敵流杖術、少林寺拳法、剣道、なぎなた、沖縄剛柔流武術、



柔道体験コーナー



空手道



無比無敵流杖術



ワークショップ

相撲の順に演武が披露された。

相撲の演武の後には、相撲体験コーナーが行われ、現地の6名の少年が相撲を体験。体の小さな少年が相撲団員を寄り切ると、会場からは大きな歓声が上がった。

10分の休憩を挟んで後半の演武が始まった。後半は合気道、銃剣道、天真正伝香取神道流剣術、空手道、柔道の順に演武を披露した。

最後は柔道体験コーナーに移り、ここでは団員と子供たちの乱取が行われた。締めくくりとして佐藤武尊団員と現地の少年が試合をした。少年が一本背負投に入ると、佐藤団員の体が宙を舞い、少年が見事な一本勝。この一連の流れに観客は大盛り上がり。大きな拍手が沸き起こった。

閉会式では松永団長が謝辞を述べ、演武会は幕を閉じた。

その後、ワークショップとなり、観客が会場のアリーナに移動して、会場中でそれぞれの武道、古武道の体験会を行った。通訳を通じて熱心に武道談義をする者や演武者との記念撮影をする者など、和気あいあいとした雰囲気で行われ、大盛況のうちにお開きとなった。

学生に武道講義と演武を行う



春日俊団員（柔道）

会場には約 200 名の大学生が集まった

武道講義・ミニ演武会

(11 月 15 日・国立チューラーロンコーン大学)

日本武道代表团講演会・ミニ演武会は11月15日、国立チューラーロンコーン大学で開かれ、同校学生200名を前に春日俊団員による「武道の国際化——得たもの 失ったもの」と題した講義と、現代武道9道、古武道3流派の計12団体によるミニ演武会が行われた。

はじめに松永団長が武道代表团を代表して挨拶に立った。

「武道は自分の心と体を鍛え、相手の立場を尊重して、社会の発展を図ることが目的であります。今日は武道演武を堪能していただければありがたいと思います」

続いて、チャニンチャイ・インテイラポーン国立チューラーロンコーン大学スポーツ科学部学部長が歓迎の挨拶を述べた。

「日本武道代表団の皆様、ようこそタイへおいでくださいました。また本学で武道の講義および演武を開催されることを嬉しく思います」

その後、松永団長よりインテイラポーン学部長に贈呈品の目録が手渡され、春日団員の英語による講義「武道の国際化——得たもの 失

たもの」に移った。

春日団員は私的な見解として、武道に携わる者は勝敗や立場を超越して互いの存在を認め合い、称え合いながら礼によって相手への尊敬の念を表現している。礼は相互理解と友情の証であり、人種や言語を越えて世界平和に通じるからこそ世界中の人々が武道と出合い、体験する機会に恵まれることを念願していると述べた。一方で柔道は、オリンピック種目として競技化する中で礼を尊ぶ武道本来の姿が失われているように思えるとした。ただし、柔道が世界に広がった理由として、教育的価値が認められたことを挙げ、これは他の武道も同様だと分析。世界の人々に大きな影響を与えたことが武道の国際化で得たものだと言及し、武道の国際化を通して、一人一人が世界平和に貢献できるのではないかと問いかけ、講義を締めくくった。

続いて、現代武道9道と古武道3流派によるミニ演武会が行われた。教室いっぱいに入った学生は武道に興味津々の様子で、真剣に見入った。スマートフォンで動画や写真の撮影をしたりしていた。



ミニ演武会・武道体験会

(11月16日・バンコク日本人学校)

日本人学校生徒80名が武道を見学・体験

日本武道代表团ミニ演武会・体験会は11月16日、バンコク日本人学校で開かれ、同校生徒約80名と保護者が集まって、現代武道3道と古武道3流派のミニ演武会および武道体験会が行われた。

まず、福島慎哉バンコク日本人学校校長が歓迎の挨拶を述べた。

「古来、武道は体を鍛え、心を磨き、礼を修める心気力を充実し、礼に始まり礼に終わるなど素晴らしい教えを伝えております。その武道の数々を本日身近に観ることができ、大変ありがたいことです。参加の生徒諸君が大いに体験し、楽しむとともに武道の真髄に少しでも触れることができたとご期待申し上げます」

続いて、松永団長が挨拶に立った。

「今日は日本が世界に誇る伝統文化である武道の真髄をお見せするという機会を与えていただき、ありがとうございます。生徒の皆さんには

今日の演武を見ていただいて、武道に対する理解を深め、そして、いつか武道をやって、よりたくましく、立派な人間になることを期待いたします」

その後、松永団長より、福島校長に贈呈品が渡され、演武に移った。

演武は少林寺拳法から順になぎなた、銃剣道、天真正伝香取神道流剣術、無比無敵流杖術、沖繩剛柔流術の順に披露され、集まった生徒たちは、興味深そうに見入っていた。

演武の後は、現代武道と古武道に時間を区切って体験会が行われた。どの武道、古武道も順番待ちの列が途切れず、特に少林寺拳法や沖繩剛柔流術には、腕に覚えのある生徒が団員に対して力強い突きや蹴りを繰り出していた。

◎西川倫さん(小学6年生)

「いろいろな経験できてすごく楽しかったです。銃剣道をいつか習ってみたい。銃の形をしているけど、剣道みたいな動きをして面白かった」

日本大使館、タイオリンピック委員会、タイ体育局を表敬訪問

日本武道代表団の団長および各代表者は11月14日、日本大使館、タイオリンピック委員会、タイ体育局を表敬訪問した。

日本大使館では佐藤重和在タイ日本国大使館特命全權大使と、タイオ

リンピック委員会ではワリン・タン スファシリスポーツ医科学委員長と、タイ体育局ではジャリヤ・マウンカエウ財務担当理事と会見し、それぞれ日本からの記念品を贈呈した。

【日本武道代表団日程表】

11月13日(水)	12:30 18:05 23:15	結団式・壮行会 (日本武道館) 成田国際空港発 スワンナプーム国際空港着
11月14日(木)	10:00 13:00 15:00	在タイ日本国大使館表敬訪問 タイオリンピック委員会表敬訪問 タイ体育局表敬訪問
11月15日(金)	13:30 19:00	武道講演会・ミニ演武会 (チュラーロンコーン大学) 在タイ日本国大使館主催 歓迎レセプション (大使公邸)
11月16日(土)	10:00	ミニ演武会・体験会 (バンコク日本人学校)
11月17日(日)	14:00 20:00	日本武道代表団武道演武会 (バンコクユースセンター) 解団式・打ち上げ
11月18日(月)		アユタヤ遺跡視察
11月19日(火)	23:15	終日自由行動 スワンナプーム国際空港発
11月20日(水)	07:00	成田国際空港着

演武会をご覧になった佐藤重和特命全權大使のコメント

「演武会は緊迫感と交流が両方ありましたし、12団体もあつて長時間でしたが、時間が経つのを忘れるくらい素晴らしいかったです。こういった交流事業を通じて、一人でも多くのタイの人に日本や武道を紹介し、日本には素晴らしいものがあると感じてもらえれば

いいと思います。交流は続けることで両国の関係が緊密になり、互いの国の文化に対してさらに理解を深めることが重要です。こういう行事は大きな交流の中の一つの通過点でもあり、出発点でもありますから、引き続き、継続してもらいたいと思います」

【団員名簿】(敬称略)

- ▽団長 松永光 (日本武道館会長)
- ▽団長秘書 佐々木一也
- ▽日本武道館プロジェクト事務局 永嶋信哉 (事務責任者、佐久間義輝、青木元樹)
- ▽柔道 春日俊 (七段)、山田利彦 (六段)、大森淳司 (五段)、鈴木貴士 (五段)、佐藤武尊 (五段)、佐野望 (五段)
- ▽剣道 脇本幸彦 (教士八段)、花田宏 (教士七段)、姫野純二 (教士七段)、池田公律 (教士八段)、八木沢誠 (教士八段)、吉川彰一 (練士六段)
- ▽弓道 伊藤徹 (教士七段)、松本代志博 (教士七段)、新司正人 (教士七段、磯部孝 (教士七段)、森茂行 (教士七段)、戸部孝仁 (三段)
- ▽相撲 本田凌輝 (三段)、大石親良 (三段)、池田行宏 (三段)、坪山晃大 (三段)、永山雄介 (三段)、生井彰人 (三段)
- ▽空手道 瀧谷孝 (教士七段)、前田利明 (教士七段)、荒賀正孝 (教士七段)、安住敏克 (練士六段)、佐野武司 (練士五段)、荒賀知子 (三段)
- ▽合気道 関昭二 (七段)、櫻井寛幸 (六段)、小山雄二 (四段)、里館潤 (三段)、川口耕司 (参段)、森圭司 (参段)
- ▽少林寺拳法 杭田要 (正範士七段)、真木秀昭 (大拳士六段)、大内信弥 (大拳士六段)、三井純一 (大拳士六段)、上杉嘉紀 (大拳士五段)、田中由喜 (大拳士五段)
- ▽なぎなた 角薫 (教士)、服部雅子 (練士)、佐藤あき子 (練士)、喜入みどり (四段)、島袋梓 (三段)、中洲夏海 (三段)
- ▽銃剣道 山田明 (教士八段)、根本努 (教士七段)、伊東孝 (練士六段)、森岡浩二 (練士六段)、松野和樹 (練士六段)、川村貴嗣 (練士六段)
- ▽天真正伝香取神道流剣術 大竹信利 (極意皆伝)、京増重利 (極意皆伝)、荒野祥司 (免許)、土井研二 (免許)
- ▽無比無敵流杖術 根本憲一 (宗家十五代)、谷啓二 (免許)、村木治治 (師範代)、沢幡伸男 (師範代)
- ▽沖縄剛柔流武術 東恩納盛男 (範士十段)、上原米和 (八段)、山城勝也 (七段)、蔵元雅一 (六段)
- ▽記録 後閑信弥 (棟ケエースト)

(団長以下総勢72名)

好評発売中

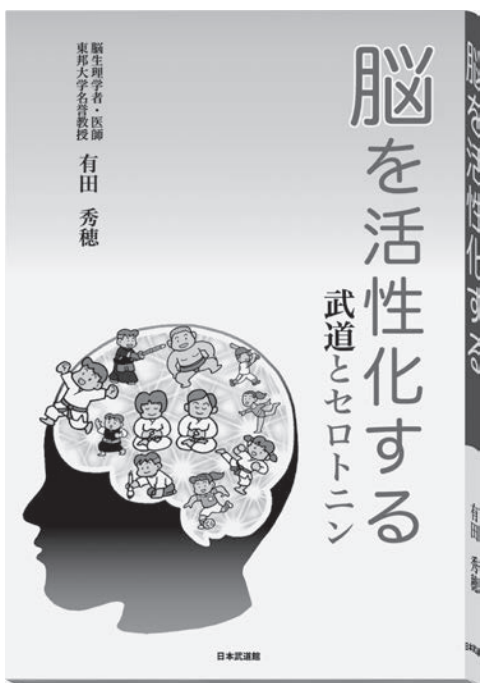
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニンの生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心
日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）

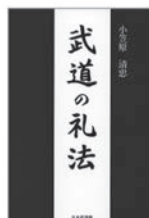


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

（四六判・上製・248頁）

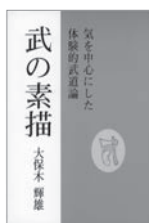


武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）



天皇杯第 62 回全日本相撲選手権大会

川端翔伍に天皇杯

▽予選リーグ

全日本選手権出場権を得るためのポイントによって、4人組のリーグが組まれて予選が行われた。この予選で2勝以上あげた者が決勝トーナメントに進出した。

予選リーグではポイント上位の選手が順当に勝ち上がった。40歳のベテラン、加藤耕一は若い選手に力で押され、3敗で力なく敗退した。

▽決勝トーナメント序盤戦

五十嵐敦（いざらあつひ）
五十嵐敦（岩手県）は初戦の2回戦で佐々木耕大（日本大）を破ると、3回戦で吉田勝雄を押し倒した。

期待の1年生、トゥルボルト（日本大）は学生横綱の一ノ瀬康平を破ると、3回戦で小兵の宇良和輝（関西学院大、85kg）と対戦。宇良は得意の足とりを狙って潜り込もうとするがトゥルボルトに肩を押されて失敗。両者離れると宇良が低い体勢のまま、遠回しに何度も足を狙って飛び込んでいく。ついに宇良が足をとったが、トゥルボルトは足を引きながら開き、上から力をかけると宇良は土俵上に大の字にバツタリ。体格差のある相手を次々に倒し、会場を

天皇杯第62回全日本相撲選手権大会は12月8日、東京・両国の国技館で開催された。決勝で川端翔伍と工藤豪人の日本大同期同士が対戦し、川端が押し出して、初めての天皇杯を手にした。大会には過去一年間の各種大会の成績に対して与えられたポイント上位の社会人や大学生、インターハイ、国体少年の部で優勝した高校生など総勢68名が出場した。

前回優勝の遠藤聖大(追手風部屋・前頭七枚目)は角界入りのため、不出場。今回は、社会人から松永六十四(長崎県、第57・60回優勝)や澁谷悟(日本通運、第59回優勝)、吉田勝雄(九州電力、第54回優勝)、加藤耕一(静岡県、第52回優勝)といった歴代選手権者が出場した。また、学生からは国体成年の部優勝の中村大輝(日本体育大)や全国学生選手権優勝の一ノ瀬康平(日本体育大)、各種学生大会で好成績を残している大道久司(東洋大)、川端翔伍(日本大)、正代直也(東京農業大)、工藤豪人(日本大)といった面々が名を連ねた。

順当に勝ち上がった。

中村大輝は初戦で野口清之(長崎県)と対戦したが、土俵際で野口に腕を取られ、野口が体を開く勢いに抗えず、そのまま土俵外へ。野口が引っ掛けで金星を上げた。勢いに乗った野口は3回戦も葛西剛大(近畿大)を破って8強への勝ち名乗りを受けた。

坂元元規(日本大)は初戦の2回戦で荒木関賢悟(東洋大戦)を寄り切ると、3回戦では芳賀翔真(東洋大)を押し出して、準々決勝へ勝ち上がった。

沸かせたがここで力尽きた。

川端翔伍は初戦で、国体準優勝の高田在秀(日本通運)を押し出して破ると、3回戦で選手権優勝2回の松永六十四と対戦した。川端が下から当たると松永は引きながらはたき込む。川端は足を止めずに頭を松永につけたまま押して前に出る。押されて苦しい松永は引きながら右上手から投げをうったが、引いた足が先に土俵を割り、川端が松永を破った。

注目の大道久司と正代直也が3回戦でぶつかった。互いに正面から当たると、間隙を突いて横に回りながら大道は脇を締め、正代を攻める。大道は足を止めずにそのまま押すと、正代はなす術なく、大道が準々決勝へ勝ち進んだ。

西郷智博(日本大)は、2回戦で伊藤豊(つがる市消防署)を、3回戦で中村優太(山口県)を破ってベスト8進出を決めた。

日本大主将の工藤豪人は2回戦で手島進吾(京都市上下水道局)を難なく降すと、3回戦は神山達哉(アイシン精機)を上手投げで沈めて、



3回戦=トゥルボルト(左)対宇良



3回戦=川端(手前)対松永



3回戦=大道(右)対正代

準々決勝



川端翔伍（手前）○押し出し●大道久司

大道が突きで川端を引き離す。食らいつく川端だったが大道の引きに体が泳ぐ。その時に必死に出した腕が土俵際で大道をとらえ、逆転の押し出しで川端に軍配。



トゥルボルト（右）○寄り切り●五十嵐敦

トゥルボルトは左上手から前禰をとると、右から下手をとって十分な体勢。一気の寄りに五十嵐は抵抗できず、寄り切りでトゥルボルトが勝った。



野口清之（右）○寄り切り●坂元元規

野口は立ち合いで左に変化。そのまま左上手をとるがこれは切られる。今度は前禰をとると、坂元も左上手をとるが、野口は腰をひねってこれを切る。野口が頭を坂元の胸につけながら前に出ると、寄り切って野口の勝ち。



工藤豪人（左）○寄り倒し●西郷智博

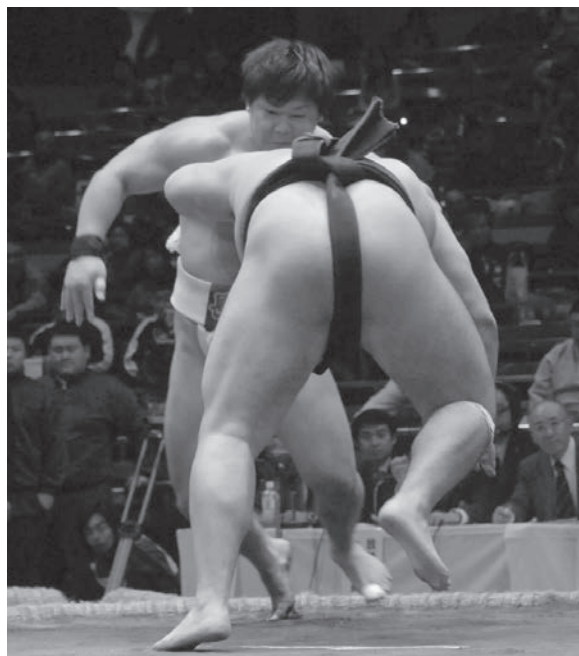
工藤は右下手を窺う。西郷も下手をとらせまいと、工藤の右腕を脇でおさえる。この体勢で膠着状態に。西郷が出ようとしたところを工藤が右で脇を抱え、左をおっつけながら寄り倒し、工藤が4強に名乗りを上げた。

川端翔伍（右）○押し出し●トゥルボルト

トゥルボルトは離れた位置からの立ち合い。川端はトゥルボルトの差し手を絞りながら両脇をはずに押していく。川端はトゥルボルトの右手を払って、もう一度当たると、左からおっつける絶好の体勢。そのまま押し出して川端が決勝進出を決めた。



準決勝



工藤豪人（手前）○押し出し●野口清之

何度か立ち合いが合わない両者。仕切り直して立ち合いがようやく成立。互いに同じような高さでぶつかり、野口の体が土俵の上を滑るように工藤に押し込まれ、そのまま勝負あり。工藤が決勝に駒を進めた。

決勝



●準優勝Ⅱ工藤豪人選手（日本大）
「今日は学生最後の試合でしたが、自分のできることを出し切って負けたので悔いはないですね。今後はアマチュアで頑張っていきたいです。目標は社会人で一番大きなこの大会です。生涯現役のつもりなので、一回は獲りたいですね」

川端翔伍（右）○押し倒し●工藤豪人

立ち合い、川端は相手の両脇をはずに押していく、さらに右から押して崩れた工藤を今度は左から押すと工藤は土俵際に。追いかけてさらに押していく川端に工藤は土俵を回り込んで逃れようとするが、最後は川端が向こう正面で工藤をとらえ、押し出して川端が初優勝を決めた。

優勝 川端翔伍選手（日本大）



初のタイトルを手にした川端は感無量の面持ちで優勝の喜びを語った。「何も考えられません。嬉しいの一言です」

予選リーグを無傷の3連勝で突破すると、決勝トーナメント初戦の2回戦では団体準優勝の高田在秀を降し、迎えた3回戦は、選手権2回優勝の強豪、松永六十四だった。松永の引きに着いていき、なんとか寄り切ったが、その時に肩から倒れて負傷。右腕の痛々しい擦り傷がその激しさを物語っていた。

「松永選手にまわしをとられたら勝てないと思っていたので、なんとかとられずに食らいついていきました。肩は痛かったですが、そこを勝って『いける』と思いました」

本人の予感通り、川端は脇を締め、相手の脇をはずす相撲が冴

えた。決勝もその形で工藤豪人を崩した。その工藤は同じ大学で稽古に励む同級生。「稽古場でも五分五分くらいです。最後にキャプテンと試合ができてよかったです」

小学4年生の時から相撲を始めた川端はすぐに頭角を現し、同年わんぱく相撲全国大会で3位。6年生の時には横綱に輝いた。余談だが、その大会で弓取り式を行ったのは工藤だった。奇縁である。

中学3年生では中学生横綱を獲得。高校ではタイトルに届かなかったが、日本大に入ってから2年、3年と全国規模の大会で優勝を果たした。

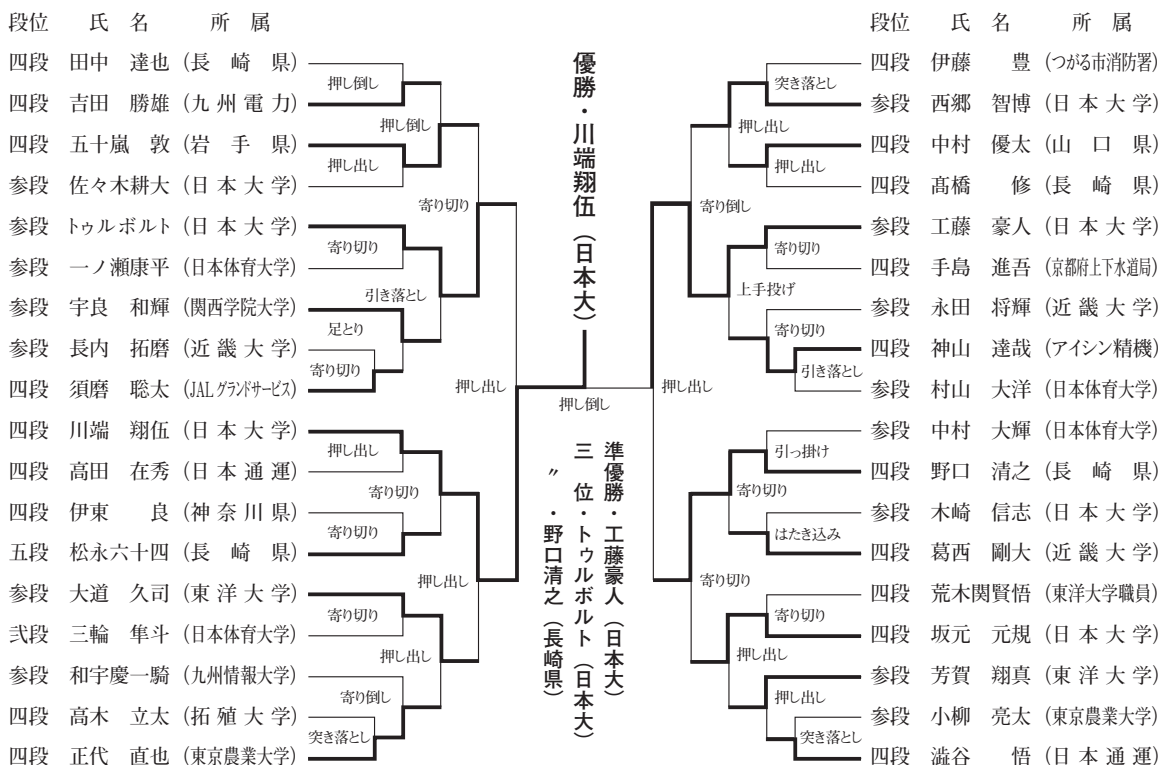
今大会を優勝したことで幕下十五枚目格付の資格を得た。しかし、進路は決まっていらないようだ。

「大相撲の道に行くかは迷っています。高校、大学で一つ上の遠藤先輩はカッコいいと思います。夢のようで別人みたいです。今回、資格を得ることができたので、じっくり考えたいと思います」

憧れの力士は豪風。身長が同じくらいで相撲が似ているからだ。夏場所、学生出身の小兵力士が国技館を沸かせているかもしれない。

天皇杯 第62回全日本相撲選手権大会

(決勝トーナメント)

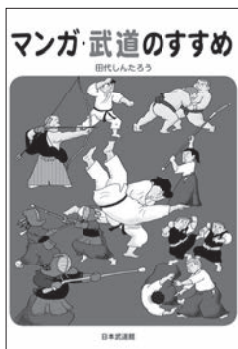


マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

相撲は塔尾武夫、住吉和則、下村勝彦、
安井和男の4氏を掲載！

大人も子どもも読んで読んで楽しく、
ためになる武道教養マンガ。



B5判・2336頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



小学6年生の部決勝＝亀井（左）対猿川

全日本相撲選手権の間にJOCジ
ュニアオリンピックカップ第26回全
日本小学生相撲優勝大会が開催さ
れ、6年生、5年生、4年生以下の
3部門に各33選手が出場し、覇を争
った。

小学6年生の部では昨年5年生の
部優勝の小関拓道（青森）と一昨年
4年生以下の部優勝の川淵一意（大
阪）がともに3回戦で敗れる。混戦
を勝ち上がった亀井颯人（千葉）が
決勝で猿川天嵐（青森）を破って嬉
しい初優勝を果たした。小学5年生
の部では向中野真豪（三重）が、小
学4年生以下の部では角田虎紀（三
重）がそれぞれ初優勝した。

【大会結果】

▽小学6年生の部

優勝＝亀井颯人（千葉）

準優勝＝猿川天嵐（青森）

3位＝松田叶夢（高知）

岡田晃周（高知）

▽小学5年生の部

優勝＝向中野真豪（三重）

準優勝＝伊藤 暉（秋田）

3位＝澤田琉希夜（高知）

鳴海匠馬（青森）

▽小学4年生以下の部

優勝＝角田虎紀（三重）

準優勝＝成田力道（青森）

3位＝栄 龍征（鹿児島）

花房 海（東京）

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

(B5判・上製・箱入・526頁)

《目次》

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」英訳文）（ごも武道憲章）
カラー口絵（日本武道館、9武道・10武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究家
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

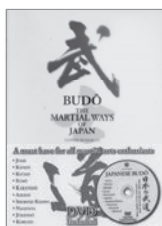
日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、たになる武道教養マンガ。



(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る！ 安井和男 先輩部長が育てる侍力士

内閣総理大臣杯
第41回全日本空手道選手権大会

香川幸允、染谷香予が初優勝

形は喜友名諒と清水希容が日本一



男子組手個人戦決勝＝香川（右）が荒賀（龍）を攻める

内閣総理大臣杯第41回全日本空手道選手権大会は、12月7日・8日に開催された。7日は、東京武道館で組手団体戦の準決勝戦までが行われ、8日は日本武道館で組手個人戦、形個人戦、組手団体戦決勝戦が行われた。

男子組手個人戦は、決勝で香川幸允（東京都）が荒賀龍太郎（京都府）を破って日本一の栄冠を手にした。女子組手個人戦決勝は、染谷香予（学連）と東世菜（長崎県）の対戦となり、染谷が初優勝に輝いた。

男子形個人戦は、喜友名諒（前年度優勝）が新馬場一世（東海地区）を5―0で降し、堂々の2連覇を果たした。女子形個人戦は、清水希容（学連）が梶川凜美（全空連推薦）に勝って初優勝した。

団体戦は、男子は京都府が6連覇、女子は東京都が2連覇した。

組手個人戦

トーナメント戦で、試合時間は男子3分（決勝4分）、女子2分（決勝3分）で行われた。得点によって争われ、時間内でも8ポイント差を生じた場合はそこで勝ちが決まる。また、今年からは、終了時に同点の場合は、主審・副審5名による旗判定で勝敗が決せられる。

《男子》

53名が出場した。松久功が競技を引退したため、前年度優勝者不在の中で日本一を狙った戦いが繰り広げられた。

国体重量級優勝の香川幸允（東京都）が、1回戦で面明嗣（石川県）に8―0、2回戦で船橋真道（高体連）に3―0、3回戦で守屋武蔵（福島県）に8―0と、相手に1ポイントも取らせずに勝ち進む。4回戦では、広川匡大（愛知県）と対戦。広川もここまで全試合8ポイント差をつけて試合を決めてきたが、香川が8―0で圧勝。初の準決勝へ。

また、学生チャンピオンで国体軽量級優勝の荒賀慎太郎（学連）が勝

ち上がり、4回戦で一昨年3位の近藤大地（実業団）を2―0で破って、準決勝第1試合は香川と荒賀（慎）の対戦となる。

一方、別のブロックでは、前回3位で国体中量級優勝の渡邊大輔（東京都）が勝ち上がり、4回戦は国吉真太郎（沖縄県）に7―3で勝って準決勝に駒を進める。

また、37回・39回大会で優勝し、前回準優勝の荒賀龍太郎（京都府）は、相手を無得点に抑えながら順当に勝ち進み、4回戦も船橋武士（奈良県）を6―0で降し、準決勝第2試合は渡邊対荒賀（龍）に決まった。

▽準決勝

香川幸允 4―0 荒賀慎太郎

香川は長身を生かして小柄な荒賀を倒して一本を狙うが、決まらない。1分過ぎ、香川は徐々に間合いを詰め、上段突きを決めて1ポイント先取する。それからさらに1分が経過、前に出てきた香川に荒賀が蹴りで攻める。すると香川は荒賀の体を倒して突き、一本を奪う。荒賀はその後も技を出すことができずに試合は終了。香川は決勝進出を決めた。

荒賀龍太郎 3―0 渡邊大輔

激しい攻め合いが続くものの、両者決め手のないまま時間が過ぎていく。残り1分を経過し、荒賀が上段突きで1ポイント目を取ると、さらに、飛び込んだの上段突き、近間からの上段突きとポイントを重ねて3―0となる。その後も技の応酬が繰り広げられたが、得点に動きのないまま終了し、荒賀が決勝で香川と対戦することとなった。

▽決勝

香川幸允 0―0 荒賀龍太郎

（判定 5―0）

互いに相手の出方をうかがう中、



まずは荒賀が突きに飛び込む。荒賀が再び突きを狙いにいくと、香川は荒賀を倒して突くも、認められない。しばらく動きがない状態が続いた後、荒賀が上段、中段と突きで攻める。香川も蹴りを出して牽制（けんせい）する。どつしりと構える香川に対し、荒賀は動きながら攻撃の機会を見計らい、中段突きに飛び込む。香川は再び倒して一本を奪おうとするが、決まらない。終了間際、荒賀の上段突きにに対し、またも荒賀を倒す香川。しかしポイントにはつながらず、0―0で試合は終了。判定となり、香川が5―0で勝ち、初優勝を手にした。

優勝Ⅱ香川幸允選手（東京都）

「何が何でも優勝しようと思っていました。そのために、この1年間は初心に返り、練習に対する意識を変えて一からやり直しました。それが実って嬉しく思います。いつもの自分だったら、感情を露（あらわ）にして試合を投げ出してしまうこともあります。が、どうしても勝ちたかったので、諦めませんでした。決勝ではポイントを取りたかったです」

《女子》

54名が出場した。前年度優勝・小林実希は順当に勝ち進み、4回戦で五明真実子（神奈川県）を2―0で降した。

また、2年連続3位の東世菜（長崎県）が今年も勝ち上がり、4回戦で高校生の森口彩美（兵庫県）を2―0で退けて準決勝に進み、小林と対戦することとなった。

別のブロックでは、前回3位の植草歩（学連）が駒を進めていく。4回戦では大学の後輩・染谷真有美（茨城県）を5―0で降して準決勝へ。

世界チャンピオンで本大会は2年連続準優勝の染谷香予（学連）は2回戦から登場し、白根実香（群馬県）に3―0で、3回戦は山田沙羅（東京都）に2―1で勝ち進む。4回戦ではベテラン・本間絵美子（岐阜県）を5―4で辛くも破り、準決勝は帝京大の先輩・後輩対決となる。

▽準決勝

東 世菜 4―1 小林実希

まずは東が上段突きを決めて1ポイント先制する。小林が突きや蹴りで素早く相手の間合いに入ると、長

身の東は一本を狙って小林を倒そうと揺さぶる。東は小林が攻め込んで距離が縮まったところに上段突きを放って2ポイント目を獲得。勢いに乗った東は、さらに上段突きで有効を立て続けに奪って小林を大きく離す。残り5秒で小林は上段突きで取り返すが、試合終了。東が初めての決勝へ進んだ。

染谷香予 1―0 植草歩

互いに手の内を知り尽くした両者は、相手の様子をうかがいながら慎重に技を出していく。ポイントのないまま時間が経過し、残り20秒で染谷が上段突きに飛び込んでようやく1ポイント先取。後のない植草は染谷を攻め立てるが取り返すことができないまま終了し、染谷の決勝進出が決まった。

▽決勝

染谷香予 3―2 東 世菜

それぞれ機会を見計らって攻撃に出る。中盤、東が攻め込むと、染谷も突きで応じるが、そこに再び東が放った上段突きが決まる。反撃に出た染谷は中段、上段と突きを連発し、



女子組手個人戦決勝＝染谷（右）が中段突きを決める

1ポイント取り返す。ややあつて、中斷からの再開直後、両者ほぼ同時に突きた突きを東が制して2-1に。染谷は突きを重ね、上段突きで有効を奪って再び同点に並ぶ。終了時間を

が迫る中、残り5秒、再び染谷が中段突き、東が上段突きに同時に飛び込むと、染谷がこれを決めて逆転する。間もなく試合終了。染谷が初優勝を手にした。

優勝Ⅱ染谷香予選手（学連）

「初出場の時負けながらも楽しかったというくらいの気持ちでしたが、前回悔しい思いが残り、意欲が出てきたというのがこれまでとの大きな違いだと思います。香川政夫師範からはいつも、自分の組手を信じて戦えと言われているので、それを心に臨みました。本当に大変なのは追われる立場になるこれからだと思いますが、そこで負けないよう、さらに上を目指して頑張っています」



香川幸允選手の父で帝京大学空手道部師範の香川政夫氏の話

「（香川選手は）やつと花を咲かせてくれました。ナショナルチームの年長者なので、これを機に荒賀選手と力を合わせて、さらに精進してほしいと思います。試合前には持っている力を出し切りなさいと言いました。結果は稽古をしてきた一年の証だから、自分の懸ける思いを信じてやりなさいと伝えました。今年は隙がなかったというか、精神的な部分で組手をしていましたね。気を抜かないで最後までやり通したことが良かったんじゃないでしょうか。」

染谷選手も残り数秒で試合を決めたというのは、彼女の真骨頂じゃないでしょうか。最後まで諦めないというところが試合に出ていましたね。お疲れさま、本当に良く頑張ったと二人を称えたいと思います」

組手団体戦

都道府県チームによるトーナメント戦。男子は5人制、女子は3人制で、勝敗は勝者数で決まり、同数の場合は得点で決せられる。それでも決まらない場合は代表戦となる。

《男子》

準決勝には5年連続優勝の京都府、前回3位の大阪府、同じく前回3位の長崎県、前回準優勝の東京都と、すべて前回と同じ顔ぶれが揃った。京都府対大阪府は、勝者数2-2の同点となり、得点19-15で京都府が決勝に進んだ。東京都対長崎県は、3-0で東京が長崎を降した。決勝では、先鋒戦で京都・酒井健太が東京・水村春輝に3-2で勝つ



男子決勝中堅戦

《女子》

て先制する。次峰戦、京都・谷竜一と東京・渡邊大輔の対戦は、2-1で京都の勝ち。中堅戦で京都・荒賀龍太郎が東京・佐合尚人を2-0で降して、京都が6連覇を決めた。

準決勝には、前回優勝の東京都、前回3位の京都府と、兵庫県、長崎県が勝ち進んだ。東京都対京都府は、2-0で東京都が勝ち、兵庫県対長崎県では代表戦の末、兵庫県が決勝進出を決めた。

決勝の先鋒戦、東京・宮原美穂と兵庫・森口彩美の対戦は、2-0で宮原が1勝目をあげる。続く中堅戦で、東京・小林実希が兵庫・石原佑夏を3-0で降し、東京都が連覇を果たした。



女子決勝先鋒戦

形個人戦

トーナメント戦で、試合の勝敗は審判員5名による旗判定で決せられる。

《男子》

連覇のかかった喜友名諒（前年度優勝）は1回戦、2回戦と5―0で勝ち進む。準決勝では杉野拓海（北信越地区）と対戦。喜友名のアーナに杉野が岩鶴で挑んだ結果、全ての旗が喜友名に上がる。

準決勝第2試合では、前回3位の新馬場一世（東海地区）と過去2回の優勝経験を持ち前回準優勝の大木格（関東地区）が対戦した。両者ともにチャタンヤラ・クーサンクーを演じ、結果は新馬場の5―0での勝利となった。

決勝は喜友名と新馬場の対戦。両者ともスパーリンペイを披露した。判定では審判全員が喜友名に旗を上げ、喜友名が連覇を果たした。

《女子》

前回3連覇（優勝4回）を果たした宇佐美里香は競技を引退。新たな



優勝Ⅱ喜友名諒（スパーリンペイ）



優勝Ⅱ清水希容（チャタンヤラ・クーサンクー）



準優勝Ⅱ新馬場一世（スパーリンペイ）



準優勝Ⅱ梶川凜美（チャタンヤラ・クーサンクー）

女子形日本一の座を目指して熱い戦いが繰り広げられた。

準決勝第1試合に進出したのは、大野ひかる（九州地区）と前回3位の梶川凜美（全空連推薦）。ともにスーパーリンペイを演じ、5-0で梶川が決勝進出を決めた。

また、前回準優勝で学生チャンピオンの清水希容（学連）が勝ち上がった。

優勝Ⅱ喜友名諒選手（前年度優勝）

「去年初優勝しましたが、この一年を振り返ると、辛かったという思いのほうが大きいです。苦しい年だったので、最後の大会を良い形で閉めることができ、本当に嬉しいです。次に繋げられるように、これからまたすぐに頑張つて、来年は暴れたいと思います。世界選手権優勝を目指します」



り、準決勝は清水と時岡由佳（実業団）の対戦となった。スーパーリンペイを演じた清水が、チャタンヤラ・クーサンクーで臨んだ時岡を5-0で破って今年も決勝に進んだ。

決勝は清水と梶川の対戦となった。どちらも渾身のチャタンヤラ・クーサンクーを披露した結果、4-1で清水が優勝を手にした。

優勝Ⅱ清水希容選手（学連）

「今日は勝ち負けを考えるより、たくさんの人に感動してもらえようという良い形を演じたいと思っていました。この全日本選手権に懸けて一年間取り組んできたので、優勝できて嬉しく思います。今年と思うようにいかないことも多かったのですが、今日は思い切りできたので良かったです」



開会式後には、松濤館西焼津支部誠空館の岡村好幸氏（手前）と増田誠二支部長による車椅子空手の形と基本組手の演武が披露された

【大会結果】

■男子組手個人戦

- ▽優勝Ⅱ香川幸允（東京都）
- ▽準優勝Ⅱ荒賀龍太郎（京都府）
- ▽第3位Ⅱ荒賀慎太郎（学連）
渡邊大輔（東京都）

■女子組手個人戦

- ▽優勝Ⅱ染谷香予（学連）
- ▽準優勝Ⅱ東 世菜（長崎県）
- ▽第3位Ⅱ植草 歩（学連）

■男子形個人戦

- ▽優勝Ⅱ喜友名諒（前年度優勝）
- ▽準優勝Ⅱ新馬場一世（東海地区）
- ▽第3位Ⅱ杉野拓海（北信越地区）
大木 格（関東地区）

■女子形個人戦

- ▽優勝Ⅱ清水希容（学連）
- ▽準優勝Ⅱ梶川凜美（全空連推薦）
- ▽第3位Ⅱ時岡由佳（実業団）
大野ひかる（九州地区）

■男子組手団体戦

- ▽優勝Ⅱ京都府
- ▽準優勝Ⅱ東京都
- ▽第3位Ⅱ大阪府、長崎県

■女子組手団体戦

- ▽優勝Ⅱ東京都
- ▽準優勝Ⅱ兵庫県
- ▽第3位Ⅱ京都府、長崎県

心技体人を育てる総合誌

月刊 武道



日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

日本武道館

金城 裕

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

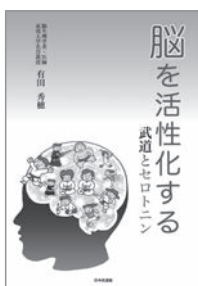
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著



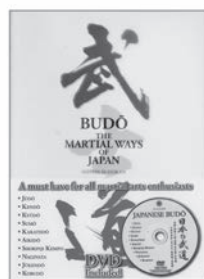
人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

皇后盃第 58 回全日本なぎなた選手権大会

安喰愛に 3 年連続の賜盃

皇后盃第 58 回全日本なぎなた選手権大会は、12 月 8 日、愛知県武道館で開催された。

大会には、前回優勝者と全国 47 都道府県から選抜された四段以上の選手 53 名が出場。決勝では、安喰^{あじき}愛四段（島根）が天川彰子錬士（大阪）を延長の末にスネで退け、3 年連続 4 回目の優勝を果たした。3 位には吉井和代錬士（東京）が入賞した。

（写真）決勝戦、安喰四段のスネが決まる



開会式では、佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が挨拶。続いて江崎鐵磨衆議院議員（愛知県なぎなた連盟会長）が祝辞を述べた。砂川邦子審判長による競技上の注意の後、安喰愛四段（島根）が選手宣誓を行った。

開会式終了後、公開演武として、全日本なぎなたの形（打・中村ゆり子範士、仕・前畠ひろみ教士）、直心影流薙刀術の形（打太刀・梶山武士範士、仕太刀・辻村光子範士）、天道流薙刀術の形（受太刀・砂川碧範士、仕太刀・木村恭子教士）が行われた。



試合は、5分間3本勝負のトーナメント戦で争われ、時間内に勝負がつかない場合は、旗判定で勝敗を決した（決勝のみ3分間の延長あり）。

◆序盤戦

2連覇中の安喰、7回の最多優勝記録を持つ池見敬子（愛媛）、平成3年に優勝のベテラン天川彰子（大阪）に注目が集まった。

安喰は初戦となる2回戦で萩原有未（長崎）、続く3回戦で新井伸枝（東京）と顔を合わせ、それぞれ判定2

理念
への修練により
れた人材を育成する



―1で辛勝した。

天川は、手数は少ないものの、要所で鋭い技を出して相手を攻め、判定勝ち2、一本勝ち1で準々決勝に駒を進めた。

池見は初戦で福岡愛子（千葉）と対戦。結果は、判定で福岡に旗2

本。優勝候補の一人が早くも姿を消した。

▽池見選手のコメント

「普段通りに動けない時間がありました。こうした結果になりましたが、

試合には生涯挑戦者として臨みたいです」

◆準々決勝

安喰は井口直子（兵庫）と対戦。試合開始2分、安喰は接近戦からの離れ際に決めたメンで一本勝ちを収めた。

板井奈津美（大分）は、第56回大会3位の貫井みさき（京都）をコテ、

《準々決勝》※安喰対井口戦は左頁



板井（左）対貫井



天川（右）対服部



吉井（右）対井上

《準決勝》



天川（左）対吉井

《3位決定戦》



吉井（左）対板井



安喰（左）対板井

スネの連続技で攻め、判定で準決勝進出を決めた。
天川は、遠間から攻める服部ゆかり（茨城）の技を捌き、返し技で応じるなどして判定勝ち。
吉井和代（東京）は、井上美代（島根）と対戦。勝負は判定にもつれ、井上の攻撃を躲して技を多く繰り出した吉井に軍配が上がった。

◆準決勝

安喰 愛 判一 板井奈津美

板井がメン、スネで攻めれば、安喰がスネ、ツキで返すなど、激しい攻防戦となった。終盤、安喰が持ちかえてからのスネ、跳び込んだのコテやツキを放つのも有効打突には至らず。結果は判定で安喰が勝利。3連覇に王手をかけた。

天川彰子 判一 吉井和代

両者構え合って見合う状態が続く。しばらくして、天川が持ちかえてからの側面を放つが不十分。吉井もメン、スネで攻めるが天川に見切られ決まらない。判定となり、天川が勝利。22年ぶりに決勝の舞台上に上がった。

◆3位決定戦

吉井和代 判一 板井奈津美

板井が遠間から積極的に攻めるのに対し、吉井がなぎなたを巧みに扱って捌く展開が繰り返される。終盤になって、吉井がメンの連続技やコテで攻勢に出るも決まらず、勝負は判定となった。結果は、吉井に旗が2本上がり、3位が決定した。

●優勝Ⅱ安喰愛四段（島根）

大会3連覇を果たしたものの、初戦の2回戦、3回戦は共に2-1の判定勝ち。出足は鈍かった。

「勝ちを意識して硬くなりました。なかなかエンジンがかかりませんでした。準々決勝でようやくイメージどおりの動きが出来るようになりました」

そう言うとおり、準々決勝では目が覚めるようなメンで一本を決め、本来の調子を取り戻した。

6回の出場で優勝4回、3位1回の好成績。どんな気持ちで試合に臨



準々決勝で井口に決めたメン

んでいるのだろうか。

「なぎなたは、多くの人が知る競技ではありません。試合を見た人が魅力を感じ、やってみたいという気持ちになってくれたらいいなと思っています。そう考えると、試合で頑張ることが出来ます」

それには勝利だけではなく、内容のある試合をすることが条件となる。容易ではないが、あえて目指しているところに強さの理由があるのだらう。

大会には、そんな「安喰イズム」を受け継ぐことになる地元道場の教え子が応援にかけつけた。

「試合の結果が、子供たちの励みになればと思います。ゆくゆくは、私を追いつくくらいになってくれたらいいですね。監督席にも座ってみました」

28歳という年齢を考えると、近い将来、全日本で教え子との対戦が実現するかもしれない。聞いてみると、「そうになったら嬉しいですね」と満面に笑みをたたえた。

3連覇の記録は松本登志美・成田登代子と並ぶ。次は前人未到の4連覇がかかる。内容のある試合で偉業を成し遂げ、なぎなたの魅力さを多くの人に伝えてほしい。

◆決勝

安喰 愛 スー 天川彰子

序盤から安喰がメン、コテ、ツキ、スネと多彩な技で攻める。防戦を強いられる天川は、持ちかえてからの側面で反撃に出ようとする。安喰はこれを警戒して打ち合わず、落ち着いて間合いを切る。その後も手数で勝る安喰だったが決め切れず、勝負は延長にもつれた。

延長開始後、天川は早々にメンを放ち、さらには返し技やメン、ツキの連続技で攻撃的な姿勢をみせる。

右から、3位・吉井和代錬士
優勝・安喰 愛四段
準優勝・天川彰子錬士



しかし、時間が進むにつれて技は減り、再び安喰がスネ、ツキで攻める展開となる。

延長2分過ぎ、天川は安喰のツキをメンで返そうとするもタイミングが合わず、中途半端に間合いが詰まる。そこで安喰がすかさずスネを放つと見事に決まって勝負あり。3年連続4回目の皇后盃を手にした。

《選手コメント》

▽準優勝Ⅱ天川彰子選手（大阪）

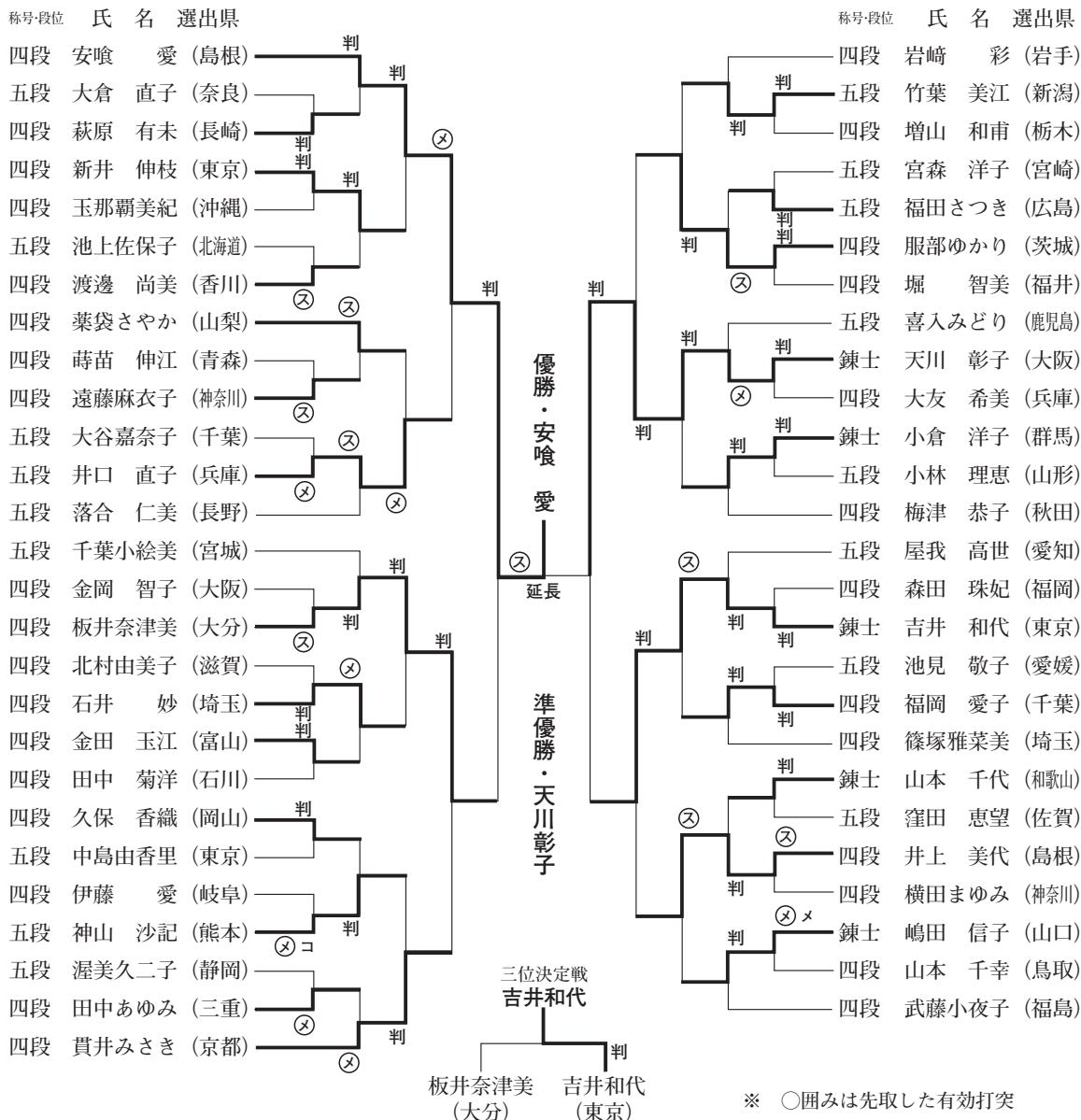
22年ぶりの優勝を逃がしたあと、清々しい表情をみせた。

「決勝まで進めたので嬉しいですが、20歳近く若い安喰選手との対戦でしたが、自分の試合が出来るよう心がけました。体が動かない分は、気持ちで補ったつもりです。次回も大阪代表で出場できるよう頑張ります」

▽3位Ⅱ吉井和代選手（東京）

「10回ほど出場しましたが、入賞したのは初めてです。今年、東京で国体が行われたこともあり、練習量はいつもより多かったと思います。相手に動かされるのではなく、自分の剣先を大事にした試合をするよう心がけました」

皇后盃 第58回全日本なぎなた選手権大会



《公開演技》団体基本



《公開演武》
上・全日本なぎなたの形
左上・直心影流薙刀術の形
左・天道流薙刀術の形



決勝＝田中（左）対中内

第13回全日本男子なぎなた選手権大会

田中康介四段（三重）が 2年ぶり4回目の優勝

第13回全日本男子なぎなた選手権大会は、12月7日、愛知県武道館で開催された。

大会には、全国から50名の選手が出場。決勝は、田中康介四段（三重）が中内脩人二段（鈴鹿医療科学大）を延長の末にコテで降し、2年ぶり4回目の優勝を遂げた。3位は佐橋五月三段（中部大）が入賞した。

大会前には、公開競技として演技競技が行われ、平田力義・小橋渉（大阪）が優勝。試合競技終了後には参加者全員による団体基本の公開演技が行われた。

開会式では、佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が挨拶。続いて、江崎鐵磨衆議院議員（愛知県なぎなた連盟会長）が祝辞を述べた。砂川邦子審判長による競技上の注意の後、田中康介四段（三重）が選手宣誓を行った。



試合は、4分間3本勝負のトーナメント戦で争われ、時間内に勝負がつかない場合は、旗判定で勝敗を決

した（決勝のみ2分間の延長あり）。

◇序盤戦

前回準優勝、過去3回の優勝経験を持つ田中康介（三重）は、初戦となる2回戦で前々回3位の榊清史（和歌山）と対戦。田中は、遠間から跳び込む榊の出端に、繰り返しスネを合わせる。両者とも有効打突は出なかったものの、判定で田中が難敵を退けた。



3回戦＝田中（右）対増田、田中のコテが決まる

これで勢いに乗った田中は、3回戦で増田道仁（兵庫）にコテを決めて一本勝ちし、準々決勝で加藤大貴（愛知）を判定で降した。

中内脩人（鈴鹿医療科学大）は1回戦、2回戦で一本勝ちを収め、準々決勝では中川慎一（名古屋学院大）と対戦。接近戦での激しい攻防が続くも時間内で勝負がつかず。判定となり、中内に軍配が上がった。

小芝大輔（東京）は、準々決勝で河合健太郎（愛知）にスネを奪われるも、すぐさまメンを決めて並ぶ。互角の展開が続いたが、判定で小芝が勝利した。



準決勝＝田中（左）対佐橋

佐橋五月（中部大）は、準々決勝で過去2回準優勝経験のある小川賢太郎（千葉）と対戦。終盤に小川のメンをスネで返して一本勝ちした。

◇準決勝

田中康介 コー 佐橋五月

開始直後から積極的に攻める佐橋の技を、田中は冷静に捌く。2分過ぎ、佐橋が間合いを詰めたところ、田中はステップして引くが、すぐさま前に跳んでコテを決める。一本勝ちして、3年連続で決勝の舞台へ。



準決勝＝中内（左）対小芝

中内脩人 スー 小芝大輔
中内は序盤から鋭い跳び込みでスネ、メンを狙う。中盤、主審が試合を仕切り直した直後、中内が小芝のメンをスネで迎えて一本。中内が決勝に駒を進めた。

◇3位決定戦

佐橋五月 メー 小芝大輔

先に仕掛ける佐橋に小芝が返し技を狙う展開に。1分過ぎ、佐橋は遠くから跳び込んでメンを奪う。そのまま時間となり、一本勝ちを収めた。



3位決定戦＝佐橋（左）対小芝、佐橋のメンが決まる



右から、3位・佐橋五月三段
優勝・田中康介四段
準優勝・中内脩人二段

◆決勝

田中康介 コー 中内脩人

序盤から攻め合う展開となるが、田中が近間でのメン、出端のスネで流れを掴んでいく。延長になり、中内はメンで活路を見出そうとするも決まらない。残り30秒、田中はなぎなたを横に構えて攻めのそぶりをみせると、中内は返し技を狙って間合いを詰める。田中はそれを見逃さずにコテを放って一本勝ちを収めた。

《選手コメント》

▽準優勝Ⅱ中内脩人選手(鈴鹿医療科学大)

「高校の恩師である田中先生と勝負

仕事が多忙で、稽古は週2回程度と語る。優勝者の稽古量としては決して多くないだろう。

「菌磨きをしながら体捌きや重心移動の練習をするなど、普段の生活の中に稽古を組みこみました」

私生活では、一年前に学生時代の後輩と結婚。妻のあゆみさんは翌日の皇后盃に出場した。家でもなぎなたの話をよくするという。

夫婦揃っての全日本出場、決勝で教え子と対戦と、田中選手にとって縁を感じる大会となった。



あゆみさんと記念の一枚

が出来て嬉しいのです。全日本は3回目の出場ですが、全て田中先生に敗れました。今回もレベルの違いを感じさせられましたが、ゆくゆくは勝てるようにになりたいです」

▽3位Ⅱ佐橋五月選手(中部大)

「学生のうちに入賞することが目標でした。地元開催でそれが達成できてよかったです。家からこの会場まで近いので、今日は自転車で来ました。地元の先生方が応援してくれて、緊張がほぐれました」

▽ベスト8Ⅱ河合健太郎選手(愛知)

地元の期待に応えてベスト8の成績。団体基本の指揮を務め、運営の

今後については、「いままでと同じように一つ一つ頑張るだけ」と語った。この「一つ一つ」の積み重ねが、なぎなたとの縁を生み出してゆくのだろう。



参加者全員による団体基本の様子
左は指揮を務める河合選手

【大会結果】

▽優勝Ⅱ田中康介(三重)

▽準優勝Ⅱ中内脩人(鈴鹿医療科学大)

▽3位Ⅱ佐橋五月(中部大)

◆演技競技

▽優勝Ⅱ平田力義・小橋渉(大阪)

▽準優勝Ⅱ加藤大貴・河合健太郎(愛知)

▽3位Ⅱ増田道仁・増田良明(兵庫)

手伝いをしながらの出場だった。「これまで審判長が行ってきた団体基本の指揮という大役を、自分が任されることになり、気が抜けませんでした。試合ではもつと勝ちたかったです。地元の若い選手が育ってきたのが嬉しいです」

●優勝Ⅱ田中康介四段(三重)
「目標にしていた鈴木亘先輩や板垣勇先輩(共に4回の優勝経験あり)がエントリリーしていなかったたので、かえって負けられないという気持ちを強く持ちました。全ての試合を全力で戦いました」

決勝で対戦した中内選手とは、以前勤めた高校で教師と生徒の間柄だった。なぎなた部では一緒に稽古をした。

「教え子と全日本の決勝の舞台で勝負できたことが一番の喜びです」

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教
員養成所 ◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた
教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第
6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参
加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

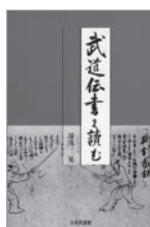


贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編
（四六判・上製・366頁）

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授
湯浅 晃 著
（四六判・上製・348頁）

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
（B5判・並製・236頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長
長濱 文子 著
（四六判・上製・356頁）

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。



女子 48kg級決勝＝近藤（下）対ムンフバト。近藤が小内巻込で一本勝

グランドスラム東京大会 2013

女子 48kg級

近藤亜美が初出場・初優勝 (大成高3年)

日本人選手 11 個の金メダル

日本で開催される唯一の国際大会であるグランドスラム東京2013が、11月29日～12月1日の3日間、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開催された。世界ランクトップクラスの選手も参加し、男女各7階級で競われた。

男子は、100kg超級、100kg級を除く5階級で、女子は、78kg級を除く6階級で日本人選手が優勝を果たした。

■男子

▽60kg級

世界選手権優勝の高藤直寿（東海大）対同3位のキム（韓国）の決勝戦。互いに素早い技の攻防が続く中、高藤は左手でキムの左襟を掴むと懐へ沈み込み、肩車を仕掛けた。キムは一瞬堪えたが、背中から綺麗に畳に落ち、高藤の一本勝。高藤は2連覇を達成した。

●優勝 高藤直寿選手（東海大）

「肩をケガした中での試合で不安もありましたが、楽しくできました。決勝では新しい肩車を出すことができてよかったです。60kg級といえは野村ではなく、高藤と言われるよう

になりたいです」

▽66kg級

2年前に本大会優勝の高上智史（日本体育大）は、準々決勝で世界選手権2位のムカノフ（カザフスタン）を降し、準決勝も勝ち決勝へ駒を進めた。決勝戦の相手は、世界ランク4位のチバナ（ブラジル）。高上は背負投でチバナを投げるも、チバナは上手く体を返し決めさせない。後半、チバナに指導が与えられる。その後、両者攻めるも技が決まらず試合終了。高上が優勢勝を収

め、2年ぶり2度目の金メダルを手にした。

●優勝Ⅱ高上智史選手（日本体育大）

「前回の優勝より嬉しいですね。絶対優勝してやろうと思っていました。自分の柔道が研究されていると感じました。その中できわどいながらも勝てたのはよかったです。自分自身を追いついて結果を出せたのは成長だと思っています。海老沼匡選手を倒して代表になりたいです」

▽73kg級

ロンドン五輪銀メダリスト中矢力

（ALSO K）とバン（韓国）との

決勝。開始1分11秒、中矢が技を掛けようとしたところ、バンが前のめりに倒れた。その隙を逃さなかった中矢は、腕挫十字固から流れるように崩上四方固を決めて一本勝。全試合一本勝で優勝した。

●優勝Ⅱ中矢力選手（ALSO K）

「久しぶりの試合で楽しめました。5試合中4試合が寝技で勝てたので、自分らしさを出せたと思います。いままでやってきたことが結果に繋がりました。ここをきつかけに選ばれた大会で優勝して、世界選手

権に繋がっていきなりたいです」

▽81kg級

永瀬貴規（筑波大）は準々決勝で世界ランク1位のチリキシビリ（ゲルジア）を、準決勝では、ロンドン五輪代表の中井貴裕（パーク24）を降し決勝へ進出。決勝の相手は今年の世界選手権金メダルのピエトリ（フランス）。激しい組手争いの攻防が続く中、ピエトリだけに指導が与えられる。その直後の3分19秒、前に出てきたピエトリを引寄せた永瀬は、足車を決めて一本勝。5試合オ



男子60kg級決勝＝高藤（奥）対キム。高藤が大内刈で攻める



男子66kg級決勝＝高上（右）対チバナ。高上が背負投で攻める



男子73kg級決勝＝中矢（上）対バン。中矢が崩上四方固で一本勝



男子81kg級決勝＝永瀬（手前）対ピエトリ。永瀬が足車で一本勝



男子90kg級決勝＝ベイカー（右）対イ。ベイカーが大内刈で有効を奪う

ール一本勝で初出場、初優勝を飾った。

●優勝Ⅱ永瀬貴規選手（筑波大）

「普段の練習の成果が出たので優勝できたのだと思います。ここからがスタートです。81kg級は永瀬」という存在になりたいです。世界選手権の優勝を目指して努力していきたいと思います」

▽90kg級

ベイカー・茉秋（東海大）は、準決勝で世界選手権2位のリパルテリアニ（グルジア）を降し決勝へ進出。

決勝では、前年優勝のイ（韓国）と対戦。ケンカ四つの組手争いから両者技が決まらず、互いに2つの指導が与えられた。中盤でベイカーが大内刈で有効を奪いポイントでリード

する。終盤、ベイカーに3つ目の指導が与えられたが、試合終了。優勢勝で勝利したベイカーは、初出場、初優勝に輝いた。

●優勝Ⅱベイカー・茉秋選手（東海大）

「初めてシニアの国際大会に出ました。一回戦から相手が強くてびっくりしました。まさか優勝できると思っていませんでした。持っているも

のを全部出そうと真つ向勝負で挑めたのはよかったです。ただ、先に指導を取られることが多かったのは課題です」

▽100kg級

日本勢は、熊代祐輔（ALSOK）が準々決勝で敗退し全滅。世界ランク3位のクルパレク（チェコ）がレ

イズ（カナダ）を降し優勝した。

▽100kg 超級

原沢久喜（日本大）、百瀬優（旭化成）はシルバ（ブラジル）に敗れ、七戸龍（九州電力）、上川大樹（京葉ガス）はキム（韓国）に敗れ、決勝には進めなかった。決勝でシルバを倒したキムが優勝。

■女子 ▽48kg 級

18歳の高校3年生、近藤亜美（大成高）は、準決勝でロンドン五輪金メダリストのメネゼス（ブラジル）を降し決勝進出。決勝の相手は、世界チャンピオンのムンフバト（モンゴル）。近藤が組み際を足技で攻めるので、ムンフバトは腰が引けてし

まい技が仕掛けられない。その後、指導を受けたムンフバトは、近藤の後ろに回り裏投げを仕掛ける。近藤はそこで右足を使い、小内巻込で返して一本勝。初出場で世界ランク1位、2位を破り、全試合一本勝で優勝を決めた。

●優勝Ⅱ近藤亜美選手（大成高）
「実感がわきません。自分の目指す

一本柔道ができたのはよかったと思います。初出場だったので、強い選手なのかはよく知りませんでした。これから海外の試合が増えてくるとと思いますが、一本柔道を貫けるようにしたいです。子供の頃から夢は五輪の金メダルなので、それが現実となるように頑張ります」

▽52kg 級

決勝は橋本優貴（コマツ）対世界ランク2位のミランダ（ブラジル）。試合開始29秒、最初に仕掛けた橋本の大内刈が決まり一本勝。オール一本勝で大会2連覇を達成した。

●優勝Ⅱ橋本優貴選手（コマツ）

「落ち着いて試合をすることができました。決勝で投げて勝てたことは自信になりました。支えてくださった皆さんにいい笑顔を届けることができましたと思います」

▽57kg 級

宇高菜絵（コマツ）は準決勝で前年優勝の山本杏に競り勝ち、決勝へ勝ち上がった。決勝の相手はロンドン五輪3位のマロイ（アメリカ）。組手争いの中、宇高だけに指導が与



女子 52kg級決勝＝橋本（左）対ミランダ。橋本が大内刈で一本勝



女子 57kg級決勝＝宇高（奥）対マロイ。宇高が大外刈で一本勝



女子 63kg級決勝＝阿部（下）対田代



女子 70kg級決勝＝新井（手前）対ポリング。新井が内股で有効を奪う

えられる。試合開始1分9秒、相四

つの組手争いから宇高は右手でマロ
イの奥襟を掴み、大外刈で一本勝。

宇高は嬉しい初優勝を果たした。

●優勝Ⅱ宇高菜絵選手（コマツ）

「今日は適度な緊張で試合に臨めま
した。途中で弱気な部分が出たので
それは反省したいです。決勝は大外
刈しかないと思っていました。一戦
一戦自分の柔道を出せるようにして
いきたいです」

▽63 kg級

決勝は、阿部香菜（三井住友海上）

と田代未来（コマツ）との対戦。両

者に指導が与えられた後、先に技を

仕掛ける阿部。2つ目の指導は田代

のみに与えられた。残り試合時間1

分45秒に3つ目の指導が田代に与え

られる。その後、田代は積極的の前

に出て攻めるも、試合終了。優勢勝

を収めた阿部が嬉しい金メダルに輝

いた。

●優勝Ⅱ阿部香菜選手（三井住友海上）

「次の世界選手権に向けて結果を出

し、新しい技も身につけて進化できる

ようにしたいです。決勝は、狙い通

りとはいきませんでした。田代選

手も強いので指導でも勝とうと思っ

ていました」

▽70 kg級

新井千鶴（三井住友海上）は、準

決勝で今年の世界選手権女王アルベ

アル（コロンビア）を一本勝で降し

決勝へ勝ち進んだ。決勝の相手は世

界ランキング1位のポリング（オラ

ンダ）。開始早々、新井は左手でポ

リングの襟を掴むやいなや、内股を

仕掛け有効を奪う。その後、指導が

2つ与えられるもリードを守りきつ

て新井が優勢勝。嬉しい初優勝を手

にした。

●優勝Ⅱ新井千鶴選手（三井住友海上）

「内容的には課題を残しましたが、

結果を出せたことはよかったです。
この優勝を次に繋げられるようにしたいと思います」

▽78 kg 級

二連覇のかかる佐藤瑠香(コマツ)は、準決勝でジョン(韓国)に一本負。岡村智美(コマツ)も準決勝でフェルケルク(オランダ)に敗れた。ジョンを破ったフェルケルクが優勝した。

▽78 kg 超級

田知本愛(ALSO K)と山部佳

苗(ミキハウス)の決勝戦。ケンカ

四つの組手争いの膠着状態が続き、ともに指導が2つ与えられた。その後も攻めきれない両者だったが、3つ目の指導は山部のみ。最後まで互いに技を出しきれないまま試合終了。田知本が優勢勝を収め、2連覇を果たした。

●優勝 田知本愛選手(ALSO K)

「連覇は意識してなかったのですが、プレッシャーはありませんでした。日本人には負けるわけにはいかないと思います。今日の課題を次に繋げていきたいと思っています」

2014年より女子の試合時間が4分に

国際柔道連盟のマリウス・ビゼール会長は11月30日に会見を開き、2

014年より女子の試合時間を5分から4分に短縮することを発表

した。

会見の中でビゼール会長は、女子の試合をダイナミックで魅力的なものにし、テレビ映りや、医学的な見地に基づいて短縮することを決めたと述べた。



マリウス・ビゼール会長

【大会結果】

▼男子

▽60 kg 級 ①高藤直寿(東海大) ②キム(韓国) ③志々目徹(日本体育大)、木戸慎二(パーク24)

▽66 kg 級 ①高上智史(日本体育大) ②チバナ(ブラジル) ③宮崎廉(桐蔭横浜大)、ラローズ(フランス)

▽73 kg 級 ①中矢力(ALSO K)

②バン(韓国) ③ドラクシッチ(スロベニア)、ヤルチェフ(ロシア)

▽81 kg 級 ①永瀬貴規(筑波大) ②ピエトリ(フランス) ③中井貴裕(パーク24)、チリキシビリ(グルジア)

▽90 kg 級 ①ベイカー・茉秋(東海大) ②イ(韓国) ③西山大希(新日鐵住金)、リバルテリアニ(ゲルジア)

▽100 kg 級 ①クルパレク(チェコ) ②レイズ(カナダ) ③ナイダン(モンゴル)、マレ(フランス)

▽100 kg 超級 ①キム(韓国) ②シルバ(ブラジル) ③原沢久喜(日本大)、百瀬優(旭化成)

▼女子

▽48 kg 級 ①近藤亜美(大成高) ②ムンフバト(モンゴル) ③山岸絵

美(三井住友海上)、メネゼス(ブラジル)

▽52 kg 級 ①橋本優貴(コマツ) ②ミランダ(ブラジル) ③志々目愛(帝京大)、キツ(ルーマニア)

▽57 kg 級 ①宇高菜絵(コマツ) ②マロイ(アメリカ) ③出口クリスタ(松商学園高)、山本杏(国士館大)

▽63 kg 級 ①阿部香菜(三井住友海上) ②田代未来(コマツ) ③田中美衣(了徳寺学園職)、ジョン(韓国)

▽70 kg 級 ①新井千鶴(三井住友海上) ②ボリング(オランダ) ③アルベアール(コロンビア)、キム(韓国)

▽78 kg 級 ①フェルケルク(オランダ) ②ジョン(韓国) ③岡村智美(コマツ)、佐藤瑠香(コマツ)

▽78 kg 超級 ①田知本愛(ALSO K) ②山部佳苗(ミキハウス) ③キン(中国)、オルティス(キューバ)



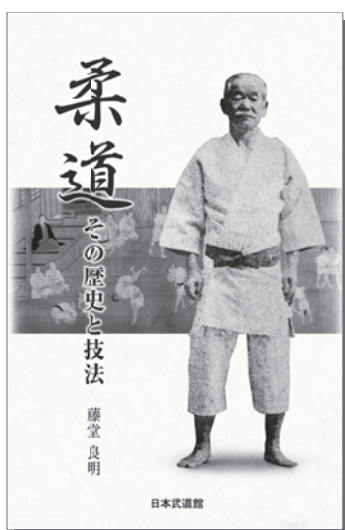
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法	第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選士権大会の開催と技法	第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法	第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題
---	--	---	--

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

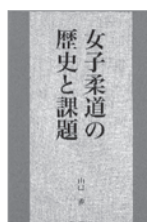


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

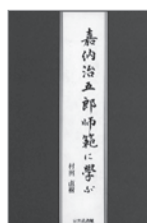


柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）



団体＝日本体育

技を競って繋がる仲間の輪

第47回 少林寺拳法全日本学生大会



女子団体＝日本

第47回少林寺拳法全日本学生大会が、11月17日、日本武道館で開催された。大会には全国から学生拳士が集結し、演武や立合評価法を競い合った。

大会には、146大学から1757名の拳士が出場。この大会が、全国の大学や地区などを多方面で繋げる役割を果たしたいという願いを込めて、「架け橋」をテーマに行われた。午前中は予選ラウンドが実施され、拳士たちは本戦出場を目指し、日頃の稽古の成果を存分に発揮して演武を行った。

開会式では、大会会長の松平頼武全日本学生少林寺拳法連盟会長が「世界には同じ理念のもとに修練に励む人がたくさんいます。皆さんが友情をそのような方たちにも広げれば、少林寺拳法の目的である世界平和に必ずや結び付くと思います。また、少林寺拳法の次の時代を背負っていくのは君たちです。技を磨くとともに、奥深い教えを身に付けて社会に巣立ってください」と挨拶した。続いて、宗由貴少林寺拳法グループ総裁が「少林寺拳法で出会った仲



男女二段以上＝村越・三橋（明治）



立合評価法＝山本（中央）、神本（慶應義塾） 女子二段以上＝畔蒜・稲川（日本体育）



男子二段以上＝宮下・山本（早稲田）

【大会結果（最優秀のみ）】

■演武

▽男子二段以上＝宮下亮介・山本裕也（早稲田）▽女子二段以上＝畔蒜みく・稲川真理（日本体育）▽男女二段以上＝村越雄磨・三橋智恵（明治）▽男子初段＝田村龍・柳田佳祐（日本体育）▽女子初段＝野井加奈子・林恵理子（日本体育）▽男女初段＝南尚宏・岡真萌（上智）▽男子茶帯＝松林昂希・宮崎善行（東京）▽女子茶帯＝上原佑香・田口蘭奈（明治学院）▽男女茶帯＝返田暢・藤田詩織（明治学院）▽男子白緑帯＝赤岡拓・山本裕貴（早稲田）▽女子白緑帯＝秋光萌・浅見凜（早稲田）▽男女白緑帯＝土橋直己・石井巴映（東京）▽単独有段＝古澤慈士（大阪産業）

■立合評価法

▽単独有段外＝堀江智久（大阪産業）▽団体＝日本体育▽女子団体＝日本
▽男子超軽量級＝林龍之介（早稲田）
▽男子軽量級＝武藤翼（近畿）
▽男子軽中量級＝松尾裕太（日本体育）
▽男子軽中量級＝飯岡聡（専修）
▽男子中量級＝川崎真一朗（関西）
▽男子軽重量級＝山本裕昭（中央）
▽男子重量級＝神本恭介（慶應義塾）
▽女子軽量級＝東野奈多（関西外語）
▽女子中量級＝伊藤美帆（明治学院）
▽女子重量級＝中村絵梨香（早稲田）

■総合優勝＝関東地区

間は、強くて逞しくて頼りになる、人生を通しての仲間です。学生の皆さんは、まだ実感することは少ないかもしれませんが、これから皆さんが生きていく社会では、その仲間が一つの力になります。表面だけではなく、心から人のことを考える仲間を作れるかどうか。少林寺拳法ではそれを大事にしています。そのことを心に、今日は日頃の修練の成果を発表してください」と激励の祝辞を述べた。

模範演武、樋口麻緒大会実行委員長の挨拶と続き、再び競技に移った。本戦では、予選を通過した拳士たちが演武を披露した。演武者の気合の声と声援が響き渡り、会場は熱気に包まれた。演武の本戦が終わると、続いて立合評価法が行われ、迫力ある攻防が繰り広げられた。閉会式では成績発表の後、各部門の最優秀演武と優秀立合評価法の受賞拳士が全員の前で演武を発表。会場からは熱い拍手が送られた。

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『魂』は生きるための生命力——
『魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄（こころ）が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

—魂魄（こころ）を育てる—

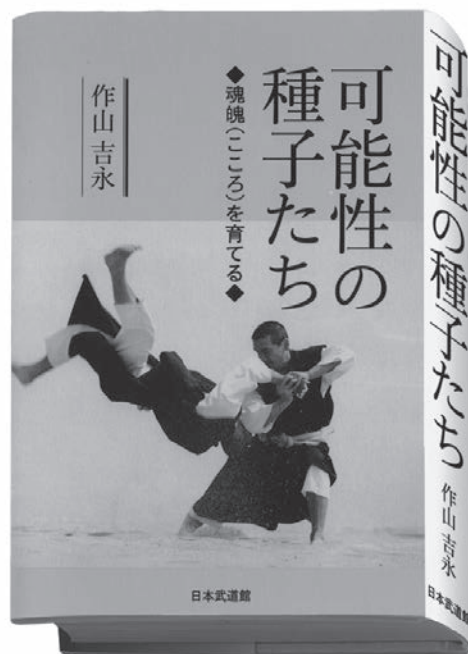
金剛禪総本山少林寺茨城高秋道院長

作山吉永 著

（四六判・上製・338頁）

主な目次

- 第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／
- 第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／
- 第6章 高山少林寺／第7章 魂魄（こころ）を育てる／
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



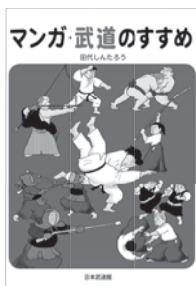
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



充実した合気道授業の実施を目指し、指導者研修会に76名が参加

第1回全国合気道指導者研修会

第1回全国合気道指導者研修会（主催Ⅱ日本武道館・合気会、後援Ⅱ文部科学省）は、11月15日～17日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、76名（保健体育科教員15名、連盟推薦者他61名）が参加して開かれた。

この研修会は、全国で合気道を指導する中学、高等学校の教員や、社会体育指導者を対象に、学校教育における合気道指導法の充実を図る目的で開催された。



稽古の流れを自ら実践して説明にあたる植芝道主

◆特別講師

植芝守央（合気道道主、合気会理事長）

◆講師

立木幸敏（国際武道大学准教授）

川城 健（国際武道大学非常勤講師）

植芝充央（本部道場長代行、合気会理事）

栗林孝典（本部道場指導部師範）

金澤 威（本部道場指導部師範）

鈴木俊雄（本部道場指導部指導員）

◆助講師

日野皓正（本部道場指導部指導員）

◆オブザーバー

大澤勇人（本部道場指導部師範、合気会総務部長）



研修会内容

11月15日	
開講式	
講演「合気道について」	
講義「合気道の安全指導」	
11月16日	
合気道授業実践例報告①	
中学校合気道指導法①「1年生の授業内容」	
講義「学校体育における武道必修化に伴う合気道の教材化について」	
中学校合気道指導法②	都道府県連盟会議
「2年生の授業内容」	「都道府県連盟の現状と役割」
合気道授業実践例報告②	
11月17日	
中学校合気道指導法③	都道府県連盟会議
「3年生の授業内容」	「中学校における武道（合気道）必修化の現状と今後の取り組み方」
閉講式	



植芝守央合気道道主

開講式では、主催者を代表して植芝守央合気道道主が挨拶を述べた。「中学校武道必修化に伴い、種目として合気道も選択肢の一つになりました。この研修会をきっかけに、合気道が多く採用され、充実した授業

が展開されるよう願っています。有意義な3日間とし、次へのステップに繋げていただきたいと思います」次に、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「この研修会は国の補助金をいただき、合気会と日本武道館が共催して、合気道の指導力向上を目的に開催します。研修の実を挙げ、中学校武道必修化の成果となることをご期待申し上げます」と挨拶した。その後、植芝道主の講演、安全指導等の講義、授業実践例の報告、主に中学校の教員を対象にした実技研修、各都道府県連盟の代表者が出席する「都道府県連盟会議」を、3日間の日程で実施した（内容後述）。

閉講式では、植芝充央本部道場長代行が挨拶に立ち、「本研修会での課題を検討しつつ、合気道が中学校の授業により多く採用されるよう、取り組んでまいります」と述べた。その後、各参加者に修了証が手渡され、研修会は終了した。

■講演

「合気道について」（植芝守央道主）

合気道の歴史に関するビデオを視聴した後、道場での稽古の流れを説明。経験や練度に差がある者同士でも稽古ができ、導きながら行う点に合気道の特徴があると述べた。また、合気会、学生連盟、国際連盟発展の歴史を紹介した。

中学校武道必修化については、まず合気道の知名度をあげ、良さを伝えることが必要で、そのためには地域での活性化が一つの力となるだろうと述べた。

終わりに、合気道の理念は、日々の稽古を大切にし、強弱を争うのではなく、お互いを尊重し、それを日常生活に活かすことである。この理念と技法を正しく守りつつ、次の世代に伝えていくことが我々の役目であるとまとめた。

■講義

「合気道の安全指導」

（立木幸敏国際武道大学准教授）副題を「頭部外傷の最新知見」として、主に脳震盪（のうしんどう）をテーマに語った。始めに、脳の構造を概説。次に、

脳震盪が起きる仕組みと、現場で起きた場合の診断方法のポイント（意識、自覚症状、記憶、バランステスト等）を紹介した。

また、運動中の頭部外傷による死亡事故を避けるため、脳震盪が起きやすい条件（夏期、初心者、運動、疲労が蓄積した状態等）を把握してほしいと訴えた。そのほか、頭部をぶつけなくても脳障害が起きる「加速損傷」、症状が治まりきらないうちに起きた2度目の脳震盪が重症化しやすいという「セカンドインパクトシンドローム」などにも注意が必要であると説明した。

まとめとして、昨今話題になっている柔道の事故は対岸の火事ではなく、武道・スポーツ関係者全員が問題を把握し、安全指導を考えなければならぬとした。

「学校体育における武道必修化に伴う合気道の教材化について」機能的特性を重視した合気道の授業づくり」

（川城健国際武道大学教授）

まず、学習指導要領及びその解説から、武道に言及する箇所を抜粋し、学習内容の確認と種目の選択について説明した。次に、体育観の歴史的

変遷を概説。授業づくりのキーワードを「何のために」「何を」「どう」の3つとし、運動そのものに親しむため、合気道ならではの楽しさ・面白さを学ぶことの重要性を語った。最後に、授業計画は生徒の視点を踏まえつつ、合気道の特性を活かした達成型のものを作るよう提案。男女共習・ペア学習・問題解決型を前提とした指導案を示した。

合気道授業実践例報告

全国で合気道の授業を実施している中学校は約40。そのうちの13校が各10分を目安に実践報告を行った。

現状については、「運動嫌いの生



授業で実際に使用している教材を紹介する発表者

徒も積極的に参加していた」「道着姿で授業を行うと、生徒の雰囲気が変わった」「部活動と違って、やりたくない生徒もいた」、外部指導者については、「学校側とよく相談しながら行った」「本物の技を見せると、生徒が真剣な目つきになった」などの報告があった。

また、「見えないものに礼をするのは宗教的にもみえて、違和感を感じる」「争わない・競わないという特性と、評価することのバランスが難しい」「生徒が使用する実技副読本に合気道の項目を加えると、認知度があがるのではないか」といった、感想や提案があった。「礼」については、金澤威講師が「はじめに中心を決めて正面に礼をするのが、おおよその武道の礼のあり方と解釈してよいのでは」と意見を述べた。

中学校合気道指導法

「1年生の授業内容」

（植芝充央本部道場長代行）
立ち方・座り方、礼、構え（半身・相半身）、運足（歩み足、送り足）、体捌き、受身（単独）、逆半身片手取り角落し、相半身片手取り小手返



合気道の礼法を指導（植芝充央講師）

「2年生の授業内容」

（鈴木俊雄本部道場指導部指導員）
逆半身片手取り四方投げ（裏）、相半身片手取り第一教（表）、両手取り天地投げの指導法を説明。一斉指導をしやすくするため、畳に色テ



単独動作で行う天地投げのイメージづくり（鈴木講師）

し、呼吸法、道着の着用について説明、実践した。技の指導にあたっては、「怪我をしないよう、はじめはゆっくりやる」「聞き慣れない言葉で混乱しないよう、各動作に番号を付けて、号令をかけながら行う」などの方法を紹介した。

「3年生の授業内容」

（金澤威本部道場指導部師範）
主に、逆半身片手取り四方投げ（表・裏）、相半身片手取り入り身投げ、第一教の解説、実践を行った。特に、「崩し・崩れ」を感じさせながら技を行うことを強調した。併せて、それが感じられるポイントで技を止め、事前に受けがどちらの足を先に着けばいいのかをチェックさせる指導法などを紹介した。



すぐに投げてしまわず、「崩し・崩れ」を感じさせる（金澤講師）

武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著

四六判・上製・三四四頁・本体二四〇〇円＋税

日本倫理思想史研究の第一人者がわかりやすく説いた、武士道書の決定版。

目次

- 第一章 武士道の大意
- 第二章 武士の流儀
- 第三章 実力世界のリーダーシップ
- 第四章 宗教的精神
- 第五章 仁義、忠孝
- 第六章 家族観、教育観
- 第七章 武士道と現代

◎ご注文・お問い合わせ◎

公益財団法人日本武道館 出版広報課
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
Tel 03-3216-5147 Fax 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>

◎参加者の感想

【保健体育科教員】

- ▽生徒の興味を惹くゲーム的要素のある指導法が参考になった。
- ▽指導者の充実、環境整備、各教育関係機関への働きかけが必要だと感じた。
- ▽合気道の授業について情報交換できる貴重な時間を過ごした。
- ▽公認指導者資格を与える仕組みを作ってはどうか。
- ▽授業を組み立てるヒントを多くいただいた。
- ▽脳震盪について学び、気を引き締めて取り組まなければならないと感じた。
- ▽専門用語を分かりやすい言葉に置き換える指導法は、他の領域でも活用できると思った。
- 【連盟推薦者（地元道場有段者）】
- ▽中学校の先生方が、合気道の採用や授業づくりに大変苦労していることを知った。
- ▽道場の初心者に教えるのとは、全く違うことに気づかされた。
- ▽学校現場に合気道を取り入れることの難しさについて、考えさせられた。
- ▽県連単位でも学校関係者向けの講習会を開いてはどうか。
- ▽安全性を考慮した指導の重要性を再認識した。

■都道府県連盟会議

「都道府県連盟の現状と役割」

- まず、吉川英夫日本武道館振興部長が、都道府県武道協議会運営助成金の交付申請の概要を紹介。その後、尾崎响全日本合気道連盟理事長が、連盟の目的・歴史を、規程等を引用しながら説明した。また、県連盟が行う周年行事の予定が伝えられた。
- 「中学校における武道（合気道）必修化の現状と今後の取り組み方」
- 林典夫全日本合気道連盟常任理事が司会を務めた。始めに徳島県の田上雅千徳島市入田中学校教諭が、県内の中学・高校における合気道指導の現状を説明。地元の指導者が市教委に粘り強く働きかけ、なんとか中学校の総合学習で取り入れられることになった経緯などが紹介された。
- 次に、今後の課題について出席者に意見を募った。以下要旨。
- 「合気道採用のための働きかけは、個人では限度がある。本部がどの程度協力してくれるのかを知りたい」
- 「講習会は時期を選んで開催し、計画は早めに、案内は教委に繰り返し送ってほしい」「教員を目指す学生に、合気道を学ぶ機会を与えたい」
- 「学校関係者に紹介するための冊子を作ってほしい」
- 最後に林理事が、「各教委に働きかけを行い、地域での普及を図りつつ、学校関係者の理解を得ていきたい」と締めくくった。

好評発売中

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的心身論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一書。



神戸学院大学教授 前林清和 著
(四六判・上製・370頁)

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節 武士の覚悟／第二節 禅と悟り／第三節 能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節 不動心／第二節 武道の悟り／第三節 駆け引き／第四節 目付／第五節 瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節 気とは何か／第二節 気の歴史と武士／第三節 勝負と気／第四節 天道と心気／第五節 静と気／第六節 達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節 武道の型／第二節 柳生の技／第三節 武蔵の技／第四節 竹刀打込剣術／第五節 心法重視の型剣術／第六節 柔よく剛を制す／第七節 矩／第八節 鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節 現代剣道と人間形成／第三節 佐川派大東流の技と修行／第三節 身を処する／第四節 死と生



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ



（B5判・236頁）

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

第12回剣道文化講演会

「剣術から剣道へ」のテーマで

武安義光全日本剣道連盟最高顧問が講演



武安義光
全日本剣道連盟最高顧問

第12回剣道文化講演会（主催Ⅱ全日本剣道連盟）は、12月7日午後2時から東京・文京区のベルサール飯田橋ファーストで開催され、武安義光全日本剣道連盟最高顧問が「剣術から剣道へ」の題で講演を行った。

講演要旨

戦国時代の鉄砲の伝来により、刀の地位が低下し、武士階級での刀の操法は疎かになっていった。そこで、刀の操法を訓練するため、江戸中期に竹刀・防具が考案され、打ち合いや試合ができるようになった。

竹刀剣術は、武士階級以外にも普及した。しかし、明治維新以降、武士階級の消滅と佩刀禁止で、剣術は衰退していった。

西南戦争が終わった頃から武術復興の空氣が出てくる。そして、日清戦争で国民の意氣が高まると、大日本武徳会が設立され、全国演武大会

などが行われるようになる。また、（旧制）中学校の教科採用の運動が起こり、明治44年、体育科目となった。中学校教育にあたつて、全国で統一的な剣道教育を行うために「大日本帝国剣道形」が制定された。明治後期からは大学や専門学校で部としての活動が活発になっていく。

大正時代には武道専門学校や東京高師で専門指導者の養成が始まる。「剣道」の呼称も使用されるようになり、昭和になると天覧試合も行われた。学生剣道の組織は次々と作られ活動したが、この頃、一般社会人の間では活発ではなかった。

戦時体制に向かい、社会的に剣道は推奨されるようになる。戦争で役立つようにと国民学校でも必修となったが、このことが悪い印象として後々まで残った。学生剣道や武徳会の大会も休眠状態となった。

戦後、占領下に入ると、軍事力の基盤の破壊・無力化のために学校における教育施設内や警察での剣道は禁止され、大日本武徳会には解散命令が出された。しかし、各地では、人目を忍んで細々と稽古を継続していた。そして、主権回復を控えて、水面下で各地のグループの活動が活発になっていった。

独立を回復し、昭和27年、剣道はスポーツとして出直すことを宣言し、全日本剣道連盟が発足。昭和30年に日本体育協会に加盟し、国体に参加するようになる。全日本剣道選手権大会をはじめとする多くの大会もスタートした。学生剣道連盟や実業団剣道連盟なども発足した。そして、女子剣道も盛況になっていった。

ところが、発展とともに、勝利のみを目指す剣道が目立つようになった。そこで、戦後の「スポーツ宣言」から、武道としての剣道へ復帰を目

指すようになる。国際関係活動も活発化していった。

平成に入り、戦後派の剣道人が剣道界の幹部となり、試合審判規則、称号・段位、顕彰、審査などの制度が改正・整備され、講習会や強化、海外普及も行われるようになった。

このような歴史の中で、剣術から変化して芸術性や風格などを備えた剣道は、一般スポーツを越えた、高度な文化性を持つものである。これからも世界を視野に入れた剣道の普及を続けていきたい。

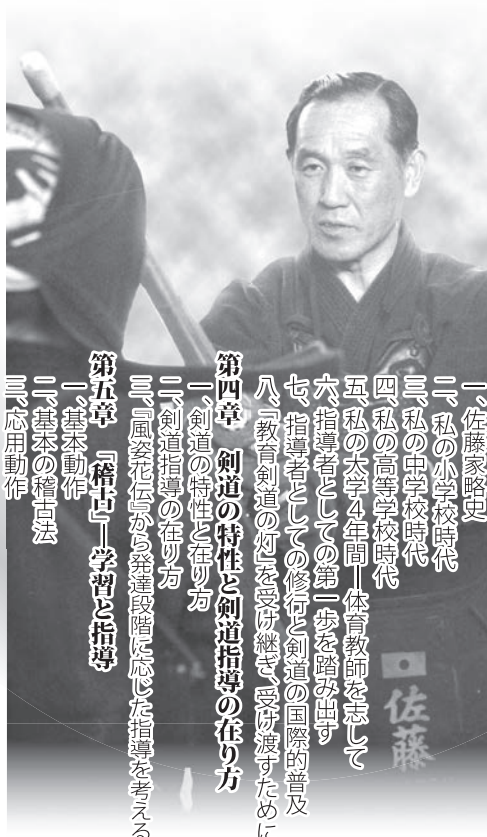
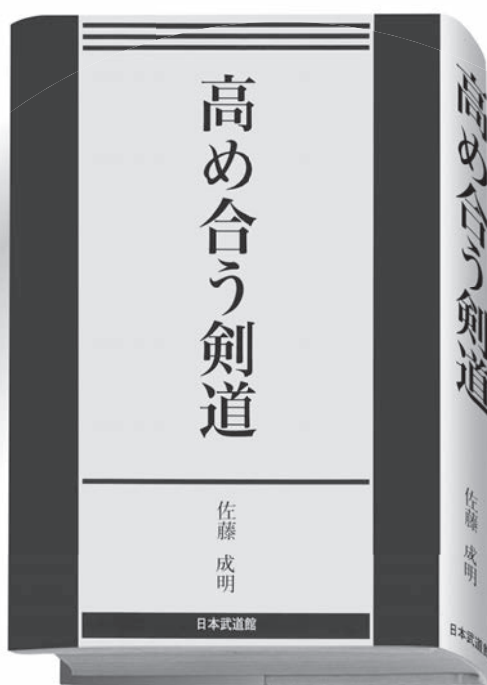
（文責・本誌編集部）



◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一 奈良時代～江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二 江戸時代中期以降～現在― 剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一 教育に関する基礎知識

二 「三育思想」

三 「教育基本法」と「学習指導要領」

四 「礼」の教育について

第三章 自分史を綴る

一 佐藤家略史

二 私の小学校時代

三 私の中学校時代

四 私の高等学校時代

五 私の大学4年間― 体育教師を志して

六 指導者としての第一歩を踏み出す

七 指導者としての修行と剣道の国際的普及

八 「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一 剣道の特性と在り方

二 剣道指導の在り方

三 「風姿花伝」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一 基本動作

二 基本の稽古法

三 応用動作

四 稽古への取組方と方法

五 剣道における形的重要性

第六章 試合について

一 試合(一)― 先達の文献から

二 試合(二)― 剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一 稽古の意義と心得

二 剣道に関する古今の訓え

三 互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。
これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円＋税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158